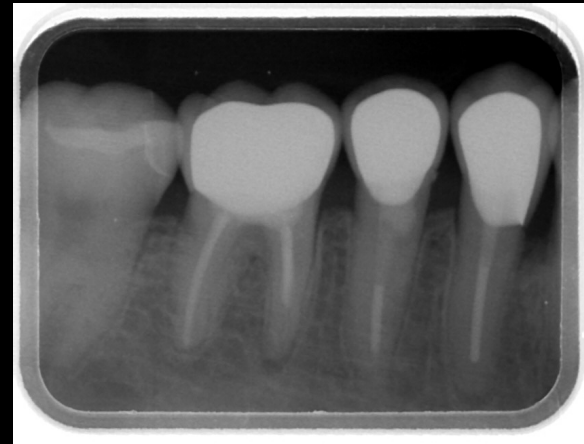


Case3

Case3



初診時

セラミック装着時

術前



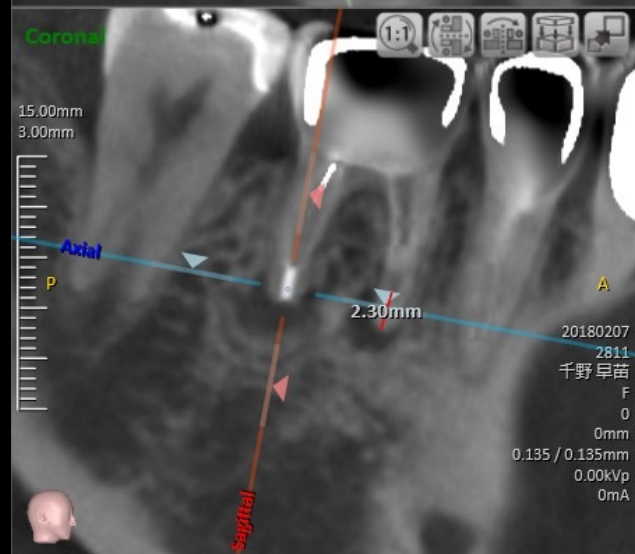
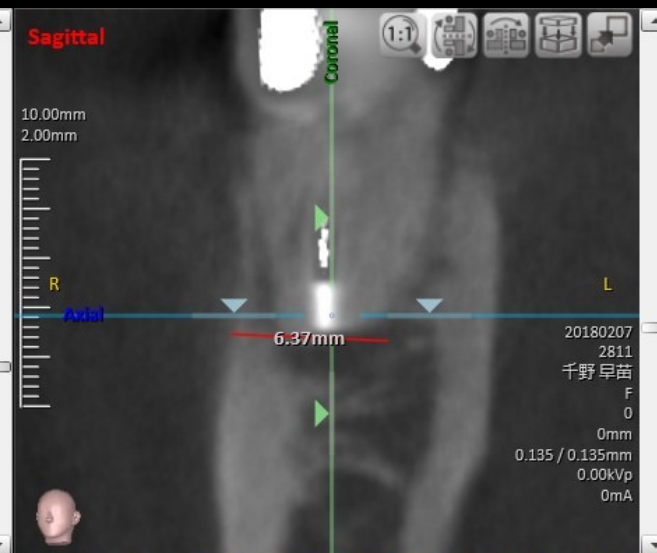
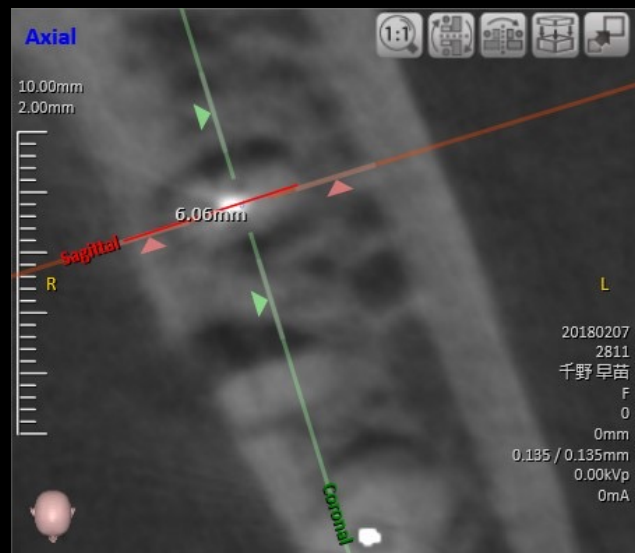
サイナストラクト

術直後



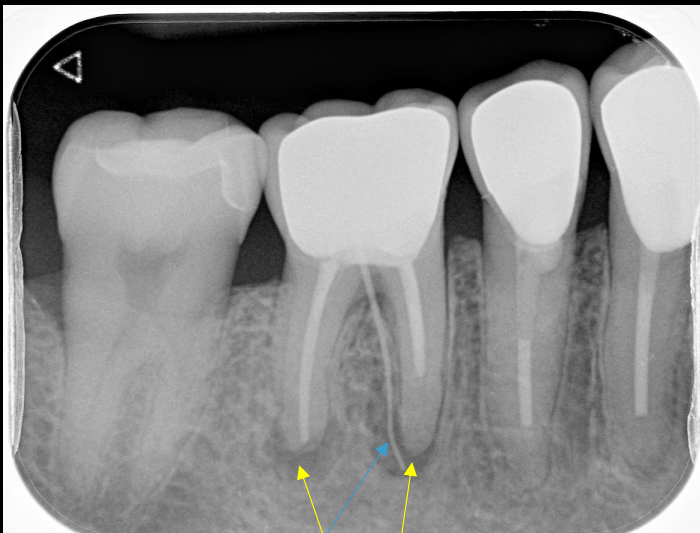
切除した歯根

# CT分析





術前



根尖透過像が認められる

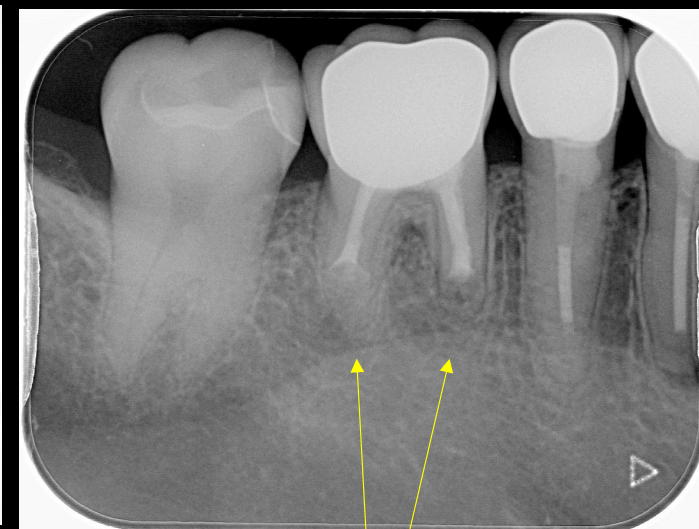
サイナストラクトに造影剤を挿入すると近心根尖部で停止した

術直後



歯根端切除により根尖部約 3 mm を外科的に切除

術後 6 年後



術後 6 年経過しているが根尖部の透過像は消失している



感染によりサイナストラクト発生



術後6年経過 サイナストラクト消失  
補綴マージンも維持されている様子

## 治療内容

奥歯の歯肉にニキビのようなものが出来た、痛みはないが診てほしいとの主訴で来院。診査の結果、以前他院にて行った根管治療部に感染が生じていた。補綴物は当クリニックにて精密な補綴を装着していたため歯冠部からの漏洩のリスクは低いと考え今回は患者さんの同意のもと外科的に根尖部の切除手術を行うことにした。

術前のCT検査から根管の形態を把握しマイクロスコープを用いて根尖部の切除とMTAによって逆根充を行い、細いナイロン糸を用いて術後の傷が目立たないように精密に縫合した。

## 治療期間

一回の治療（1時間） 1か月

## 費用の概算

歯根端切除術 110000円（税込み）

## 治療後の経過

処置後の痛みはほとんどなく、鎮痛剤の服用はなかった。1週間後に抜糸し経過観察を行った。その時点でニキビのようなもの（サイナストラクト）は消失した。

処置後6年経過、再発は起こっていない。

## 主な副作用

現代のマイクロスコープを用いた歯根端切除術の成功率は約90%であるが、解剖学的にすべての根管で対応できるわけではないので適応症の見極めが重要である。